

閉会中も県内・県外で調査を実施し、積極的な委員会活動を行っています。

県議会に設置されている委員会は、閉会中でも担当する所管事項について、審議の参考とするために、現場に向いて調査活動を行っています。今回は、常任委員会の主な調査状況を紹介いたします。

総務企画常任委員会

◎総務企画常任委員会委員

委員長・大手治之、副委員長・荒木恵司
委員・中沢文一、岩井均、狩野浩志、
岩上恵司、萩原涉、水野俊雄、
後藤克己、金井秀樹

◎県外調査

★平成28年7月26日(火)～28日(木)



②株式会社アクアパワー東北にて

①羽後町役場(秋田県雄勝郡羽後町)

今後の地域づくりの参考とするため、特産品や文化財といった地域の資源を活かして町おこしや定住促進を行う同町の取組について調査を行いました。

②株式会社アクアパワー東北(宮城県仙台市)

今後の再生可能エネルギーの導入と水道事業の参考とするため、浄水場の水道水を利用した「馬越石水力発電所」の運営状況及び宮城県の仙南・仙塩広域水道事業の概要等について調査を行いました。

③仙台市博物館(宮城県仙台市)

都市における公共施設の役割を考へる上で今後の参考とするため、同施設の現状等について調査を行いました。

④東日本大震災被災地(宮城県東松島市) 大規模地震対策の参考とするため、東日

本大震災被災地の現状等を、地元の語り部による解説も併せて調査を行いました。

厚生文化常任委員会

◎厚生文化常任委員会委員

委員長・原和隆、副委員長・川野辺達也
委員・橋爪洋介、須藤和臣、中島篤、
井下泰伸、酒井宏明、小川晶、
本間恵治、穂積昌信

◎県内調査

★平成28年8月25日(木)

①群馬県立障害者リハビリテーションセンター(伊勢崎市)

社会福祉・社会保障充実の参考とするため、施設の再編整備状況について調査を行いました。

◎県外調査

★平成28年7月20日(水)～22日(金)



③長崎県立総合運動公園陸上競技場にて

①特定非営利活動法人障害平等研修フォーラム(東京都大田区)

社会福祉充実の参考とするため、「障害平等研修」を実施する当該法人における取組状況について調査を行いました。

※「障害平等研修」は、障害当事者がファシリテーターとなって進める研修で、障害者が直面する日常的な社会の問題を、

参加者自らが気づき、発見し、さらに解決するようになることを目指して行われます。

②東京慈恵会医科大学附属病院(東京都港区)

保健医療対策充実の参考とするため、附属病院本院における医療安全の取組の現状等について調査を行いました。

③長崎県庁及び長崎県立総合運動公園陸上競技場(長崎県長崎市及び諫早市)

二巡目となる国体招致に向けて取り組むスポーツ振興施策の参考とするため、「長崎がんばらんば国体」開催までの経緯、運動公園の再整備状況等について調査を行いました。

④長崎市役所及び長崎歴史文化博物館(長崎県長崎市)

芸術文化振興と文化づくり推進の参考とするため、長崎市における歴史文化資産の活用及び価値の発信状況や、県と一体となって建築・運営を行っている長崎歴史文化博物館について調査を行いました。

環境農林常任委員会

◎環境農林常任委員会委員

委員長・金井康夫、副委員長・高橋正
委員・関根園男、黒沢孝行、須藤昭男、
新井雅博、星名建市、伊藤祐司、
金子渡、井田泰彦

◎県内調査

★平成28年8月25日(木)

①カワウ被害現地調査(みどり市)

カワウの定着コロニー(繁殖場所)になっている高津戸ダムにおいて、カワウによる被害の状況及び対策について調査を行いました。

※カワウとは、体長80cm程度、翼開長130cm程度の大型魚食性鳥類で生息数の増加に伴い内水面漁業への被害や生活環境被害が問題となっています。

②クマ剥ぎ被害現地調査(みどり市)

みどり市東町内の森林において、ツキノワグマがスギやヒノキなどの樹皮を剥皮する「クマ剥ぎ」被害の状況について調査を行いました。

◎県外調査

★平成28年7月26日(火)～28日(木)



④高知県森林組合連合会にて

①高知県立農業担い手育成センター・次世代施設園芸団地(高知県高岡郡四万十町)

農業の担い手確保及び園芸農業振興の観点から、農業担い手育成センターでは最新の園芸施設や宿泊施設で行われる研修やセミナーの取組状況を、次世代施設園芸団地ではオランダ型の先進技術への取組状況について調査を行いました。

②株式会社四万十ドラマ(高知県高岡郡四万十町)

地域の資源を活かした商品開発を通じた農村地域振興の観点から、同社の駅運営や四万十川を保全しながら活用する取組事例等について調査を行いました。

③高知県庁(高知県高知市)

林業振興及びCLT推進の観点から、高知県の原木生産や木材需要のさらなる拡大やCLT普及への支援等の取組について調査を行いました。

※CLT(クロス・ラミネーティッド・ティンバー)とは、一定の寸法に加工されたひき板を繊維方向が直交するように積層接着した木材製品。木造高層建築物の部材としての利用が期待されています。

④高知県森林組合連合会(高知県南国市)

CLT推進の観点から、CLTを木造軸組工法の大壁として活用し、準耐火建築物においてCLTを活用した日本初の建築物となっている当事務所ビルの概要等について調査を行いました。

産経土木常任委員会

◎産経土木常任委員会委員

委員長・安孫子哲、副委員長・大和勲
委員・南波和憲、松本耕司、
久保田順一郎、福重隆浩、
あべともよ、岸善一郎、伊藤清、
本郷高明

◎県内調査

★平成28年8月24日(水)

①丸沼ダム(利根郡片品村)

利根川水系における大規模ダムを除いた発電用ダム等への濁水の影響について調査を行いました。

②武尊牧場スキー場(利根郡片品村)

観光物産の振興の観点から指定管理者制度が導入されている同スキー場の現状や運営方法等について調査を行いました。
※指定管理者制度とは、公の施設の管理に民間のノウハウ・能力を活用し、経費の節減等を図りつつ、住民サービスの向上を図ることができる制度です。

◎県外調査

★平成28年7月20日(水)～22日(金)



④笹流ダムにて

①岩手県庁(岩手県盛岡市)

災害復旧対策の参考とするため、東日本大震災の災害復旧工事の状況、問題点及び災害復旧工事の結果、どのように被災者の生活再建が行われたのか調査を行いました。

②田舎館村役場(青森県南津軽郡田舎館村)

色の異なる稲で巨大な絵を制作する「田んぼアート」や平成27年道の駅ランキング1位の道の駅いなかだて「弥生の里」に取り組む同村の観光振興について調査を行い